

略歴

クライブ・ジェームズ氏 農学博士(Dr. Clive James)

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) 会長

1990 年、資源に乏しい発展途上国の農業生産者のため、知識の共有及び工業国からの農業バイオテクノロジー応用技術の取得や移転を促進するために、非営利慈善団体である国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) を自ら設立。英国で教育を受け、ケンブリッジ大学で農学博士号を取得。ISAAA を設立以前は、メキシコの国際トウモロコシ・コムギ改良センター (CIMMYT) 事務局次長を務め、そこでノーベル平和賞受賞者で ISAAA の後援者であるノーマン・ボーローグ博士とともに職務を遂行。過去 25 年間、生活・仕事の場をアジア、ラテンアメリカ及びアフリカの発展途上国に置き、農業の研究開発問題や農作物バイオテクノロジーに貢献した。また、カナダ国際開発庁 (CIDA) の農業分野の相談役として国連食糧農業機関に勤務し、また UNDP を含む多くの国際的開発機関、世界銀行、及びロックフェラー財団や日本財団などの多くの国際慈善団体の顧問も務める。遺伝子組換え作物が 1996 年に最初に商品化されて以来、同博士の発表する遺伝子組換え作物の世界的状況に関する年次報告は国際的に認知されている。

ランディ A. ホーティ氏 農学博士(Dr. Randy A. Hautea)

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) 国際コーディネーター兼東南アジアセンター理事長

フィリピン大学ロスバニョス校において農学の修士課程及び育種学の学士課程を修了、コーネル大学において育種学の博士号を取得する。フィリピン大学ロスバニョス校育種研究所長を経て、1998 年、ISAAA に参加。ミネソタ大学の農学及び育種学の客員研究員も務める。現在、国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) 国際コーディネーター兼、フィリピンを本拠とする東南アジアセンターの理事長を務める。

岩永 勝氏 農学博士(いわなが まさる)

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構) 作物研究所長

1951 年長崎県生まれ。京都大学農学部修士課程修了後に米国・ウイコンシン州立大学に留学し博士号を取得する(植物遺伝育種学)。その後 CIP(ペルー)、CIAT(コロンビア)、IPGRI(イタリア)、CIMMYT(メキシコ)等の国際農業研究機関で20数年にわたる研究生活をおくる。CIMMYTではアジア人初の所長を務める。2008年4月より現職。2006年には「日本農学賞・読売農学賞」を受賞。

一貫して生物資源の保存、活用に関する研究に従事し、多くの研究業績をあげ、国際的にも高い評価を受けている。平成14年から所長として赴任した CIMMYT では、すばやく財政再建を成し遂げ、また新規の研究戦略を設定し、世界的に最も優秀な国際農業研究機関へと飛躍させた実績は世界的に高い評価を受けている。この間に国際農業研究の分野では最高の栄誉とされるベルギー王室 King Baudouin 賞を平成16年、18年と連続受賞した。現在、農研機構作物研究所長として、所内の研究推進と運営管理に当たるとともに、機構内の作物研究の調整・推進に指導力を発揮している。

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) について

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) は、国際的非営利慈善団体であり、遺伝子組換え作物に関する知識を国際社会で共有し、農業で生計を立てる資源に乏しい発展途上国の農業生産者に対し、バイオテクノロジーの利用に協力して、飢餓と貧困を解決するべく活動している。

- ISAAA は、公的機関と私的機関が共同スポンサーとなっている。年次報告書は、Bt トウモロコシ栽培が盛んな地域を拠点とするスペイン第4位の規模を誇る銀行であるイベルカハ、および遺伝子組換え作物について国際社会が科学的知識に基づいた判断を可能にするため、知識の共有をサポートするイタリアのブッソレラ・ブランカ財団が資金提供をしている。
- ISAAA の報告書で発表された統計は、政府機関や公的ならびに私的セクターのその他機関を含む、幅広い情報源からの統合データベースに基づいており、科学雑誌や国際報道機関で広く引用されている。